

ますます

多様化が進む 時代に

漢和辞典編集者 円満字二郎

大阪から神戸へ向かって電車に乗ると、しばらくして、進行方向右手に、小さなおわんをひっくり返したような、かわいらしい形をした山が見えてくる。兵庫県西宮市のシンボル、甲山だ。海拔三〇九メートル。そのまあるい形が、なんとも人なつっこいこの山を目にするたびに、ぼくは「帰ってきたなあ」と感じる。

春になると、甲山の付け根に一か所、桜の織りなす美しい雲がかかる。そのあたりが、神呪寺の境内だ。近くには森林公園や貯水池などもあって、西宮市民のいこいの場となっている。ぼくも子どものころ、よくハイキングに行ったものだし、今でも帰省して時間があると、散歩に足を伸ばすことがある。

神呪寺とは、お寺にしては妙な名前だ。だが、子どものころには、そんなことはまったく考えなかった。神呪寺が「神の呪いの寺」とも読めるのに気づいたのは、

いったいいつごろのことだったか。

それがいつのことであれ、ぼくは小学生のころから、「呪」という漢字を知っていたように思う。それが『常用漢字表』には含まれていないことを知ったのは、東京に出て社会人になって、出版社で高校の国語教科書編集の仕事をするようになってからのことだ。

神呪寺の前から、バス道をしばらく下っていくと、夙川という小さな川に出る。ここも、桜の名所だ。河口までは数の数キロだが、常緑の松並木と、桜の花のはなやかなピンクとの対照が、思う存分、満喫できる。もちろん、この「夙」

という漢字も常用漢字ではない。

夙川の流れを渡って数百メートル西へ行くと、もうお隣の芦屋市になる。この「芦」だって、常用漢字ではないのだ。

『常用漢字表』は、一九八一（昭和五六）年、「一般の社会生活において、現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安」として制定されたものだ。収められた漢字の数は、一九四五。ここ数年かけて、文化審議会の国語分科会で見直し作業が進められてきて、字数を一九六増やした最終案が、あとは答申を待つばかりとなっている。

常用漢字に対しては、「どうしてこの漢字が含まれていないのか？」という疑問の声を、よく耳にする。たいしてむずかしいとも思えない、ありふれた漢字が入っていないことが多いのだ。ぼくも教科書編集の仕事が始めたころには、そんな思いをしばしば感じたものだ。

しかし、ぼくにとって、ありふれた漢字が、世間一般でも、ありふれたものなのか、どうか。「呪」はさすがに今回の追加文字の中にも入るくらいメジャーだが、「芦」はどうだろう？ 人名や地名以外で使い道があるかどうか。「夙」に至っては、これを常用漢字に入

れるという主張を支持してくれるのは、ぼくの故郷の住民だけかもしれない。常用漢字は一般社会での「漢字使用の目安」だから、義務教育で学習する漢字は、基本的にこの範囲内とされている。それは、高校でも踏襲されていて、常用漢字以外の漢字は、国語の授業では習わないことになっている。それでもぼくは、「呪」や「夙」や「芦」といった漢字を知っている。どこで覚えたのかと言われれば、西宮で過ごした少年時代、としか答えようがない。

ことばとは本来、生活の中で自然と習得していくものだ。漢字とて同じことで、

だから、育つ環境が異なれば、知っている漢字も異なる。ありふれた漢字が人によって違うのは、当然なのだ。特に近年、情報機器の発達によって人々が漢字に触れる機会は大幅に増えた。メールやホームページを読んでいるうちに目にする漢字の数は、膨大なものだ。その結果、ありふれた漢字の個人差は大きく拡大していることだろう。

とすれば、各人それぞれのありふれた漢字を持ち寄って「漢字使用の目安」を作り上げようとする自体に、無理

があるのではないだろうか。

漢字とは、ある時期、組織的に学習することで、その後の習得が格段に容易となるものだ。そこに、学校での漢字教育の重要性がある。国民全体に共通する漢字学習の基礎の上に、一人ひとりの漢字体験も可能となるのだから。

個々人の「漢字体験」がますます多様化していくと予想される時代に、国民に共通するある種の漢字表が必要だとすれば、それは、学校教育と切り離しては考えられないだろう。みんながしっかりと学習していて、それを使えば確実な意思疎通ができて、さらにはその後の習得の基礎としても有効な漢字のセット。それこそが、必要なのではないだろうか。

漢字表の主人公は、ぼくたち大人ではない。それを必要としているのは、これから言語体験を積み重ねながら成長し、やがて未来の社会を支えることになる、子どもたちなのである。

円満字 二郎

1967年、兵庫県生まれ。大学卒業後、出版社で国語教科書や漢和辞典などの担当編集者として働く。2008年、退職してフリーに。『心にしみる四字熟語』（光文社新書）、『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書）など、著書多数。2010年5月に、『常用漢字の事件簿 かい人 21 面相からミゾウユウ首相まで』（NHK 出版 生活人新書）を刊行予定。

